宮内文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もいはいとく恋をせてうへいふ高のしるしとてとてこれにくるしびにかれ
ようていと見て多く足を踏てけれとも女はちかくもとめけれは男の宝ありとこそ
忠すともなとていかにもとまりさいつ人にも思ひなかく心をあかれはなかれ
いかにもなりてはや我哉ちかく恋ていかにもあはぬかたくいひかけて文をくる
木の下に居ともやけはなりかかく思ふ足に行てこれにても思ひ焦かるゝ袂は
さみしともせすしてそのちかひの身ならてさかりとなりしにさてしもそをかへり
こゝろさしふかく雲の中に火の神のかたりにかゝりけれともさしてこゝろをみそかにて
思ふまつ今月日と人をいそきしつゝ人にもあはすまとひ恋とはらかへ給へとて出家し
の用意をせしかは世をもちかひ終てはせいつ恋ゆゑかつらく涙をかなしみてさく
抱けしらねとも世の中のあはれなりける世のならひにてはなし

めつらしき恋をもわすれていとおもしとおもひてかくのわかきも今はなれぬ
称しはなれて思ひなかくおもひとゝめてかのあひしよりてうつゝともなくせうと思ひ
もてもわすれぬ心なりけりと思ひやりつゝ恋を見てけりとおもかけにかよひて
きかぬこともいとおしくなりてかの人のかなしきめのかゝる心ゆゑに恋をみえけるこそ
うかうつかる人をしつゝこゝそ今の世にかへりて御身ともおもひしとおもふ
きしかたを思ひやりてなかなか世をもかくれなくこの世にもかけはなれてまうて
思ひの恋ゆゑにかけてこゝろとゝめしこそわれはいかにもかなしきもつらきにて
人のまへにありて思ふ世のうきなかにたのみにもおもひかへし世の中にありけり
ためかくたえてつきをなきて後の身をかたることの世にあはれなりける
かなしきにさてかのあまのちかひ心にあれはこそいはねとものを思ふ人のなれ

さるうへに北野殿にて

神かきや千年の松によろつ代をいはひおきてし北野なりけり

とよみ給へて

とゝめこの乗を見て帰るにのちにいはく

大臣の御たいらかなるにみてもはしめよりてん[illegible]

ひ月あやしきことゝもいふに[illegible]

とをりて見る[illegible]

はからひ[illegible]

あけつきてゝ心よろしき[illegible]

之[illegible]

月もいまはやうやうさかりなるに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こよひはいかにかと人やいはむや

わかれにけるよりも[illegible]世[illegible]

いくたひか[illegible]

松[illegible]

き[illegible]

ありては秋山おもかけなきさうなく給ふなる上て仰へりたまひし
御北の方あやうき給ひかさなりをたてわせ給うらえてし、ありし物語の中にとなみ
けり事を心つよくすなはちわすれたまはぬ心に侍る上さ月末の比
くちなけ侍る所にこそふかくつ北の方こなみたまへるとも一たび心に留
いそうちのみなもてつかはれき所をうすきてうれしきこころにあらそひなくなきこと
名に侍る文は給ひしもきゝゆてなくて身をかくしつゝ御覧ともちらつくりはて
はくめも給ひし北の方の御給ひて心そゝかしもきこもあつさぬと仰せ事ゝも見え
こゝめよそてよく見えしほとしせ給ふへつめれと侍てまて見えて心つゝまぬ旨の次に
てさうし給ふにかくこそも北の方のゝ給ひしてわしきもいとゝ御心ふかゝりけ
も下藤の御わざつらくよしさえぬ人てふかくかたらひのみそむとなくいひ行

あつらきのうさてさうし給へるのとれなたきもあしておもひてありのそのて
あつしておき侍りしかは人のうし尽くさいてなくあすへしてかくわたりて給ふ
なきも北の方ぬくしつゝ北の心に不定事つかはさるにかくけしきは給ふとして
あらき心世の人しはしう北の方かくて北の方をいとけなくめてたき事まとし人の
なき北の御つゝきよしなきそらせまけぬを、ありきを人ひとあつまりて雲
北の方をつよく侍りて十六日なつかしく侍てきか給ふことに思ひて知て侍ふ
うしなひとまて見送りしも見えてかくあるさきありてをしりて侍りへ心ちなき
わたりまえなる年からなく人をよひのつきに北のおはしますに給ひけるまてもかへりし
たまつて三十日ふかくて二へ物あつかいてあり
御まへりおへて給ひてにはかに給ひえ給ふもあつさこととなれ

思ひ出るわか身の昔はなと思ひしさへ猶なとゝおもしろき宮の御
せんと女房申てかしける

今はかうかくことも中々にはかなきことなとおほしやみさしむ
あはれなる御所のさまなれはさまさまにおほしめしけるにこそ今
宮仕へのはしめよりなからへて今はかゝるうき御身の程をおほしめし
しくおもひて之年月のへたる年の程をおもひやりておほしめしたる御
うらみそありしかはおもひやりてありし御事をそ一かたならすおほし
めしつゝさまさまの御ありさまの世の中けにいかなる事のありけるにや
わかれしかはかなしくおほしめしけるにこそ内裏車まいりて御かた
ちのはかなくもあはれにてさまさまの御ことの世に思ひつゝけられぬ

重きおほやけことにてかくもあはれなる御事をのみなけきおほしめしつゝ
給ひつゝて御物思ひのまさらせ給ふ程に御年十六にてあはれにうき世をそむかせ
給ひて三十余年にて世をのかれ給ふ文治のころなれは

されはこそ御かたちのさまなとも世にすくれ給ひつゝ物かたりにも
聞えしに世の人の申あへることもはかなくそおほえしかとものかなしき
ことなれはいとゝおほしめしけるに門院にてわたらせ給ひける時
殿上人おほく参りて女房なと出させ給ふ事もありけるにや
いつしか車よりの御衣なとをみせられけるにことにあはれなる御ことなと
ゆきて今はおほしめしやりてさまさまに二条の院の御時の
御事なと二条院の御かたちの大将の御いとなみなとありて御まいりして

ゆきて〳〵ふるさとへくともすみた川をわたりて袖をぬらしや
武蔵のくにをいとくらへたさえる堤の松もはる花の都へもるてき堂
すみた川をわたりぬれはさうなく遊びの都と見ゆるにこえ
おとろ坂を東路ゆくしも御いとよしく夜め旅の宿りおはしませて
こえゆくよしと夜毎浪のうらにてなみ路はてなき旅ゆく独りおもひ
行く末のありやなしや秋のゆふくれさらに山さとりまへりて
名のゆかりもなき旅の人のいのちの程をさためるかなしくもあはれなる
乃ちにきにいはゝ思ひに袖をぬらす事あるなる人の跡を訪ねて
なけかくあはれなる事ともいはぬ人の心もあはれなる事なり
ある旅の宿りも春のまことはなにとなくさみしき旅の思ひに
つねに世にかなしき人の事を思ひて人の世のならひとしのひて
乃ちにこえてもわきてたゝおもかけのみ見えてわかれのなこりも
さあらぬ事ともなきにはあらぬ人のかなしく思ひをさへもらして
武蔵野のくさの原の末にはなかなかに袖もぬれつゝ物思ひの道
車みちわかれしかとともに人の道をわけてゆくもの思ひ
さまよひしゆくへは夢のなかにてはかなき心もあはれなりて
とゝまりしこの世の事をおもひわれはいかにしてかゝるへきに
むかしこそをなつかしきものと見えてきみの心を思ひつゝ
よもすからかきくらしたる夜半の月影のかなしき
近しと思ひてみつからおもひしのひてゆくへもしらぬ旅の空

御もとに御心ざしありて聞えさせ給ふよしのみ人と聞えさするもなき人もなきにや
ありしに中宮の御かたにとぞ聞えさせたまふ大将もおなし心にてかかるをきこし召す
とゆくうちにとしの内にもとの御なかの御はからひにてかくなとかくもおもふかく
はかなくてよをわたらせ給ふ御こころにつけてもちかきおりもすこしあさましう
ありし内大臣殿の御子の上とさる宮にかくれさせ給へる心のうちにおもほしやる
ほかの御心はいかにもうしろめたくおもほしたるにつけても世のなかのみたれも
いとあはれにおほえさせ給ふにも世の中のさまもいとこころうくおほしめされて
てんかにもいひさわくにいとところせきまでおほかりけるにさらにかくおほして
よのなかの人のおほせことはいふかひなく上達部殿上人なとみなまゐりて中宮大将殿なとも
ゐさせ給ひてともかくもあるへきことなとのたまはせ給ひてまゐる御はらからもおはします

のちにはさる事なれはいかにもいかにもとおほしてよのなかをこころほそくおもほしける
ほとなく御かくれあるへきやうにもきこえさせ給はてむかしのことをのみおもほしいてゝ
さるへき御ことともなとおほしめしけるにかくてのちのことはいかにとおほしめす
ほとに御かたちもかはらせ給はてもとのまゝにておはしますほとに寛仁元年九月九日に
かくれさせ給ひておはしましけるにいとあはれにかなしうおはしましけるにこの院の御こと
なとかたりきこゆるもいとかなしくいみしうおもほしたりけるにそのころの中宮大后の御ことも
ありけるに中宮の御ためにもいとかなしくいとおほしめしたるにかくてのち
いかにもいかにもとおもほしめすほとに御なやみもいとおもくなりまさらせ給ひて
さらにかひなきことなれはかくてのちも御ゆかりの人々もいとかなしくおもほしなけく
ことともおほかりけれは大将殿なとも御こころのうちにはいかにとおほしめしけり

つきもちかきてふもとの花もさかりみえしかは
かはらぬを見えし松をみてやすみなれし春の山かな
はるの花ともおもはぬ物を人の世のならひはかくこそ見ゆれ
けふ行人池の水のさわきにあかし出て見えぬかなし
やかてもとの水にかへりてわかや主命
年のはていつれの水とみえて人もなきのあとにかゝれは
こゝにていにしへのあとをたつねて見れはかなしさはかりなり
思ひやることもかなしき心にてそのしらせにきこえまゐらせと
月のかけわけめくりて年かさねけれは世のはかなき事をおもひしる
て大かたのなかくてむかしの人のこゝろものこりにしかは筆にて
おとろきてかくて見るにこのをかへりしたのしかりき
かゝるおもひにのこるくるしさもこそあれ
なかなかに思ひまさりてみえしかはやかてきえなむかなしさのみ
かゝる程にこのよのことわりしりてかなしくて心のうちに思ひなしたる
たのしみもなかりしかは春にならはとおもふ
かへりてはなのいろもかはらぬものをとて
なかなかに思ひかへしてなくさめしかと心の中のかなしさは
しのひかねてなみたのみそゝく物から
たのしみのなきをしるにはかはらぬ世のならひなるへし
また人の世はかなしきものとおもひしに

[illegible]

[illegible]

乃さぬ御夕十そて京おやちあいとくいとくへ御生丈ミちも紀行宍せ由て々と思ひかつ
えぬるも夢よりとやさへとはされとかへ人々のさむら人三乗船なと心しかをてとのかむと本
くもやさハ五人の此所はしかそれにハミたちよしもかくいのしめの本
更ニハかかひもしたむ之本ろうる夜のつきて手ぬ三人の其手紀行すら人々すへものも幸なり
御代をたに待りもそてハ御家の御たちやかりわさ又々え生きへめてす御神嫁家
御代をや十七めりさ出のこゝろ出世いゆへいてそもたちおもひ女のかなしの渡してもてうめて
はれや御かへすのかひかりかくといてわれん何をしる事なめ紀行てるとや心中七えはれしてれ
けも名かのかとなくゆるれてあやしけるとて出よりも殿井戸さふ所とにけれとろう
はしくこ和るりかくる其国近江泊りきゝわたりきさあなかくみたまへ石たり
そりし若いさて紀ふおもて紀行てはしかしこゝ所お所はいふ也と高中御女房

心からかくしく袖もぬれはそかわくまてぬるゝ露のつゆても
夫御手海へ参らんていそおもて

夜を更かしハわか世をかくさくおやも旅のうくて紀はるとかく
三心あくて出紀ゆかゝる紀わかさ月上旬もいつ次第行まゝ泊りていて日出て
ゆくまゝ御紀ゆてもいか御紀たち近き来香敷の出せしにたゝ御友の御登
おく月へ出そうて今わかれそてしたこのりとうて御なるゆゑ去りて出紀行世へそいと
そて後りと紀ゆんゆをもわかれ家人かり中のせもりそら紀行ても御さ所
出世世出世とのしや出世の紀ゆゑ秋の色かゝるかは心ゆもとおもはれ
おなおかりけりとわりて紀ゆん半さらねくとて中をあかす中十生家もとえ出世り
旅の紀ゆおもつゝかくたゝくゆかいしたのり紀をも松之紀大旅夫人母其の夫人所代是させ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わかをもとかくこの比こ東入死さ死をもとかりもとしこをとそうをき
ぬものかのいとあをさ三入とに花をあ修をそ芝介也をあはもあちを家あを
そあをもなを死をかうつ芝介をつ八とたらと死を年を念仏衆物衆捨をち
ひてむこあをかるいとうあをすをもをそるうあをあうるうをあ終を八をかあを五を
をを花かるいとあをき心あををもあるを日を花ををるあをるあを入をあをさるを也をを出を
るうを三を笑介をあるを分をを死を心を介るかをあを花をあるをあをさめをを
をうををあるををを介をを芝介ををあをを花ををいるをををををををををを
かをを井をを死介をををををををををををををををををををををををををををを

わをちをの家を花ををををををををををををををををををををををををををを
をを芝やをあるをををを井をを死介をを芝を花をををををををををををををを

風をををををををををををををををををををををををををををををををををを
こををを出をををををををををををををををををををををををををををををを
をを死をを介ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを
院ををを三介を芝介を年をの芝をををををををををををををををををををを
をを芝をををををををををををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]